

4 高齢期になっても伸びる「結晶性知能(能力)」と衰える「流動性知能(能力)」

皆さんは、高齢期になっても伸びる能力があることを、ご存知でしょうか？

「結晶性知能(能力)」と言われるものです。

イギリスの心理学者、キャッテル (Cattell, R. B.) は、私たちの能力を以下の二つに分類しました。

「流動性知能(能力)」 「結晶性知能(能力)」

前者は、新しい場面への適応に必要な能力をさします。具体的には、推論する力、暗記力、計算力などが挙げられます。ピークは25歳ころと言われ、65歳前後で低下がみられます。

後者は、過去の知識や経験が土台になる能力です。具体的には、経験に基づく専門的な技術、長年携わってきた業務の説明をすることなどです。個人差がありますが、年齢の影響を受けることが少なく、60歳、80歳になっても伸びることがわかっています。

再雇用や再就職をした60代後半・70代の方たちに、今まで全くやったことがない仕事を与え、

「なかなか覚ええない」「すぐに忘れてしまう」と不平を口にしている…ということはありませんか。「結晶性能力」を生かすことにより、教える側、教わる側も、ストレスが少なくなります。

•